

外郎売（ういろうり）

拙者親方と申すは、お立会いの中に、御存じのお方もござりましようが、お江戸を發つて二十里上方、相州小田原一色町をお過ぎなされて、青物町を登りへおいでなさるれば、欄干橋虎屋藤右衛門、只今は剃髮致して円斎となのりまする。

元朝より大晦日まで、お手に入れまするこの薬は、昔ちんの国の唐人、外郎という人、わが朝へ来たり、帝へ参内の折から、この薬を深く籠め置き、用ゆる時は一粒ずつ、冠のすき間より取り出だす。

依つてその名を帝よりとうちんこうと賜わる。

即ち文字には 頂き・透く・香い」とかいて とうちんこう」と申す。

只今はこの薬、殊ことの外ほか世上せじょうに弘ひろまり、方々ほうほうに似看板にせかんばんを出いだし、イヤ、小田原の、灰俵の、さん俵の、炭俵のと色々に申せども、平仮名をもつて「ういろう」と記せしは親方円齊ばかり。もしやお立合うちあ合ひの中に、熱海か塔の沢へ湯治にお出いでなさるるか、又または伊勢御参宮いせごさんぐうの折おりからは、必ずお門違いなされまするな。お登りならば右の方かた、お下りなれば左側、八方が八つ棟、表が三つ棟玉堂造り、破風はふには菊に桐のとうの御紋を御赦免ごしやめんあつて、系図正しき薬でござる。

イヤ最前より家名の自慢ばかり申しても、ご存知ない方には、正身こしよの胡椒こしょうの丸吞まるのみ、

白河夜船しらかわよふね、さらば一粒食いちりゆうたべかけて、その気味合きみあいをお目めにかけましょう。先ず此この薬を

かように一粒舌いちりゆうしたの上にのせまして、腹内ふくないへ納めますると、イヤどうも云えぬは、胃い、心しん、肺はい、

肝かんがすこやかになりて、薰風咽くんぷうのんどより来きたり、口中微涼こうちゅうびりようを生しょうずるが如ごとし。

魚鳥、茸、麵類の食合わせ、其の他、万病速効ある事神の如し。さて、この薬、第一の奇妙には、舌のまわることが、錢ゴマがはだしで逃げる。

ひよつと舌がまわり出すと、矢も盾もたまらぬじゃ。

そりやそりや、そらそりや、まわつてきたわ、まわつてくるわ。アワヤ咽、さたらな舌に、

カ牙サ齒音、ハマの二つは唇の軽重、開合さわやかに、あかさたなはまやらわ、おこそとの

ほもよろを、一つへぎへぎに、へぎほしはじかみ、盆まめ、盆米、盆ごぼう、摘蓼、摘豆、つみ

山椒、書写山の社僧正、粉米のなまがみ、粉米のなまがみ、こん粉米の小生がみ、

繻子ひじゆす、繻子、繻珍、親も嘉兵衛、子も嘉兵衛、親かへい子かへい、子かへい親かへい、

ふる栗の木の古切口。

雨合羽か、番合羽か、貴様のきやはんも皮脚絆、我等がきやはんも皮脚絆、しつかわ袴の

しつぽころびを、三針はりながにちよと縫うて、ぬうてちよとぶんだせ、かわら撫子、

野石竹。

のら如来、のら如来、三のら如来に六のら如来。

一寸先のお小仏におけづまずきやるな、細溝にどじよにより。京のなま鱈奈良なま学鯉、

ちよと四、五貫目、お茶だちよ、茶だちよ、ちやつとたちよ茶だちよ、青竹茶筌でお茶

ちよと立ちや。

来るわ来るわ何が来る、高野の山のおこけら小僧。

狸百匹、箸百膳、天目百杯、棒八百本。

武具、馬具、ぶぐ、ばぐ、三ぶぐばぐ、合わせて武具、馬具、六ぶぐばぐ。

菊、栗、きく、くり、三菊栗、合わせて菊、栗、六菊栗。

麦、ごみ、むぎ、ごみ、三むぎごみ、合わせてむぎ、ごみ、六むぎごみ。

あの長押の長薙刀は、誰が長押の長薙刀ぞ。

向こうの胡麻がらは、荏のごまがらか、真ごまがらか、あれこそほんの真胡麻殻。がらびい、がらびい風車、おきやがれこぼし、おきやがれ小法師、ゆんべもこぼして又こぼした。

たあふぽぽ、たあふぽぽ、ちりから、ちりから、つつたつぽ、たつぽたつぽ一丁だこ、落ちたら煮て食お、煮ても焼いても食われぬものは、五徳、鉄きゆう、かな熊童子に、石熊、石持、

虎熊、虎きす、中にも、東寺の羅生門には、茨木童子がうで栗五合つかんでおむしやる、かの頼光のひざもと去らず。

鮎、きんかん、椎茸、定めて後段な、そば切り、そうめん、うどんか、愚鈍な小新発知。

小棚の、小下の、小桶に、小味噌が、こ有るぞ、小杓子、こ持つて、こすくつて、こよこせ、

おっと合点だ、心得たんぼの川崎、神奈川、程ヶ谷、戸塚は、走つて行けば、やいとを摺

りむく、三里ばかりか、藤沢、平塚、大磯がしや、小磯の宿を七つ起きして、早天早々、

相州小田原とうちん香、隠れござらぬ貴賤群衆の花のお江戸の花ういろう、あれあの花

を見てお心をおやわらぎやという。産子、這子に至るまで、この外郎の御評判、御存じな

いとは申されまいまいつぶり、角出せ、棒出せ、ぼうぼうまゆに、臼、杵、すりばち、ばち

ばちぐわらぐわらぐわらと、
羽目^{はめ}を弛^{はず}して今日^{こんにち}お出^いでのいずれも様^{さま}に、
上げねばならぬ、
売^うらねばならぬと、
息^{いき}せい引^ひつぱり、
東方^{とうほう}世界の薬^{くすり}の元^{もと}々^{じめ}、
薬師^{やくし}如来^{にょらい}も照^{しょう}覧^{らん}あれと、
ホホ敬^{けい}つて、
いろいろは、
いらつしやりませぬか。